【ドバイ 2019 世界パラ陸上競技選手権大会・第 6 日 (11 月 12 日午後)】出場選手コメント

◆女子 200m(T13)　決勝

・佐々木　真菜(東邦銀行)

まずは、スタートで遅れてしまって反省点だが、走り自体は悪くなかった。タイムも追い風参考となったが、来年に向けたいい走りができたかなと思う。スタートは、「セット」が聞こえづらくて、「これは正式なセットなのかな？」と集中しきれなかった。来年に向けて、いろいろな音が聞こえても集中しなければと思った。今日の朝は緊張を感じたが、それを受け止めて、どういう走り方をしうかと考え、準備できたのはよかった。走力もついている。今後は持久力をつけて、まずは 57 秒台前半を出せるようにしたい

今回はすごく充実した大会だが、まだトップ選手との差が開いているので、もう少しというところまで来ているので、同じように走れるよう、走力と持久力、そしてメンタルも強くしたい。冬季練習では、外側に腕を振ったり、遠心力に負けて外側に行ってしまったりということがないよう、軸をブラさず自分の走りができるように、体幹トレーニングにも取り組みたい。

◆女子走り幅跳び(T63)　決勝

・村上　清加（スタートライン Tokyo）

自己ベストが出せなかったので悔しい。大会前に、踏切前で失速するという現象があったので、なるべく失速しないよう、勢いよく走るよう心掛けた。ファウルもなかったのに、距離が伸びなかったのは、踏切のタイミングや健足の上げ方などに課題があったと思う。ファウルがなかったのはよかったかと思う。そこから伸びたかったが。義足を日本製に変えて伸びていたが、まだ新しいものに慣れてはいない。100m も諦めていないので、走力をつけて、タイミングや踏切も強化し、東京パラに必ず出場したい。

・兎澤　朋美(日本体育大学)　銅メダル

緊張した部分もあったし、初めての世界選手権の舞台でどうなるかと思ったが、監督やコーチとのミーティングで、練習をそのまま本番でも実践することにフォーカスを置いてやってきました。記録は正直なところ、もう少し上を狙っていたので、残念なところはありますが、結果として銅メダルと東京の出場内定を獲得できたのは、まあ、良かったかなと思います。

3 本目までである程度の記録は残っていたので、4 本目からはここで何か変えないと終わってしまうと思いました。コーチからもそういう話がありました。少し守りから攻めに

入ったというか、少し変えてみたのですが、なかなか難しいなというのが、今の感想です。来年の東京パラリンピックはもっとタフな試合になると思います。来年を迎えたときに自分自身ももっとレベルアップして、世界の頂点に向けてハイレベルで戦っていけるように、残り数カ月準備していきたいと思います。

・前川　楓(チーム KAITEKI)

正直もっと伸ばせると思っていたので、正直、悔しい部分もありますが、人生で一番楽しい日でした。楽しいというのは、今までの試合では、緊張して力んでしまい、練習とは全然違う自分が生まれてしまう。それがすごい悩みだったのです。でも、そこを一番の課題として取り組んできたので、その成果がこの大会で発揮できてすごく嬉しいです

4 位という結果は、今回の最大の目標だったので、安心したし、本当に嬉しいです。ドバイに着いたときからずっと緊張していて、それをどうやって取っていこうかと自分と対話しながらやってきたので、メンタル面が一番よかったと思います。

2 大会連続のパラ出場

前回は経験も浅く、ラッキーで出られたのですごく楽しめました。でも今回は 4 年間、東京のために、一日一日積み上げてきた中で迎えるので、そこは全然違います。自分へのプレッシャーも周りからのプレッシャーも大きいですが、それを楽しみつつやっていきたい。今の一番の目標は東京大会でのメダル獲得なので、それに向けてこの冬季も大切に練習したいです。

◆男子 100m(T52)　決勝

・伊藤　智也（バイエル薬品）

（400m につづき）2 個目のメダル、嬉しいですね。ギリだった気がする。危ないレースでした。実は、後半にグローブが外れて左手だけで漕いでいました。（最後は）追い上げたというより、他が落ちてきたんです。

東京パラまでには、レース展開のパターンを作ろうとは思いますが、このレーサーを使い始めたばかりなので、アジャストなどができてない。これから、加速を重視するのか伸びを重視するのかなど、グローブも含めて、来年の 4 月をめどに決めようと思っています。レーサーとの相性はいいと思います。だからこそ、出ている結果（メダル 2 個）だと思います。まだ課題は多いが、しっかりと決めていきたいと思います。

8 年ぶりの世界選手権でメダル 2 個を獲得は、1500m で 1 個取れたらいいなと思っていましたが、まさかの 2 つ。3 つ目も頑張ります。

・大矢　勇気（ニッセイ・ニュークリエーション）

（4 位で）表彰台に立てないのは悔しいですが、東京パラ内定は嬉しいです。レースの組み立ては、まずは得意のスタートダッシュを決めて、中盤からは加速して維持していくことをイメージしていたが、30m から 50m で一漕ぎするのを滑ってしまって減速してしたので、4 位になってしまいました。ミスがなければ、3 位は取れていたと思います。（世界トップと戦えて）今回はすごくいい経験をさせてもらいました。

世界のレベルはすごく高いと思いました。今の自分の力は発揮できましたが、まだ物足りなさに悔しい気持ちもありますが、伸びしろはあると思うので、東京に向けて頑張って練習し、レベルアップしたいです。

（コメント協力：星野恭子）